

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

事業所名 はぐはぐ子ども村高鍋

公表: 令和2年3月30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	H30.4~部屋を広くリフォームしてから広く活用できるようになった。	現状維持。
	2	職員の配置数は適切である	8	0	最低基準人員見込している。加配加算人員1人	配置人数はクリアしている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	1つの部屋を活動などで仕切って使用し死角になる部分が少ない。 目隠し用のカーテン、布などを使って環境整備している。 間仕切りなど使い集中できる活動空間を工夫している。 片付け場所が分かりやすいよう玩具の写真を貼る。 荷物の籠に児童の写真を貼る等の工夫をしてる。 身体の不自由な児童の利用はないが、体幹の弱い児童には必要に応じてスロープなどを利用している。	構造化に加え、環境設定は常に検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	毎日掃除を行い清潔につとめている。 活動に合わせて部屋を区切り空間の工夫をしている。 毎日玩具や部屋の掃除を行っている。 集中させるときはブラインドを閉め、遊びの時には開ける等をして環境を整えている。	現状維持。

業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0 無回答1	職員間で常に話し合っている。ケース会議、カンファレンス回覧の他にも日ごろから話し合い報告し合う雰囲気になっている。	昨年より積極的な話し合いができています。引き続き各職員が意見を言いやすい環境づくりを整備していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	保護者の意見を聞き業務改善につなげている。	H30年度より保護者評価を開始した。今年度も沢山のご協力を頂くことができた。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	昨年度よりホームページにて公表している。	H30年度より保護者評価を開始し、ホームページに公開しているが実際に見ている方が少ないと思うので、告知や用紙で公表する等、目を通して頂ける工夫をしたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4 無回答2	昨年度から保護者評価アンケートを実施している。	法人内の児童発達支援センターから指導を受けている。保護者アンケート結果を踏まえて改善に努めている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	外部研修、事業所内ケース会議等に参加している。	虐待防止、権利擁護研修の他に、児童発達連絡協議会の会員になり研修に参加している。現状維持。

適切な支援の提供

10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	見学の時、日々の療育の中で常にアセスメントをとり計画に役立てている。また、各療法士ともカンファレンスでのアドバイスも反映させている。	相談支援の方の計画と連携した内容の個別支援を作成している。
11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2	アセスメント用紙を活用している。	アセスメント用紙は活用しやすいよう今後も使いながら検討していく。昨年度の管理者集団指導にて相談支援いんと事業所のアセスメント用紙が同じでない方がよいとのことで同法人の相談支援事業と、各事業所のアセスメント様子を見なおした。
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0	具体的な支援内容は盛り込んでいるが、発達支援ガイドラインをじっくり照らし合わせては勉強不足な部分もある為、今後もガイドラインの活用については学んでいきたい。	児童発達支援ガイドラインを職員で周知していくように検討する。
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	朝礼で一人一人の目標を確認し合ったり個別の支援を意識できるよう話し合うようにしている。ケース会議、クラスごとの話し合い、カンファレンス等共通理解している。	関わる職員が計画を確認してから保護者へ説明をしている。また、毎日朝礼で本日利用する児童の関わり方等確認しあうようにしている。
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	職員間で話し合い、各療法士の指導も盛り込みながら行っている。子供の成長に合わせて工夫している。	基本プログラムを基盤に自由遊びや制作等は季節や年齢に応じた取り組みを考えていく。今年度より各療法士とのカンファレンスの時間を密にして日々に取り入れている。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	職員間の情報の共有、各療法士とのカンファレンスを行い工夫しながら取り組んでいる。	毎日朝礼、夕礼などで話を共有している。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8	0	日常の観察をきちっと記録し状況の把握を正確にし、支援計画に反映させるよう努めている。個別課題をプログラムしている。	個別療育と集団療育の取組の組み合わせは現状維持。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	毎日朝礼で情報交換、共有をしている。本日利用の児童について支援内容の確認をしているが、送迎を担当する職員が不在になり全体での共有が難しい。	毎日、朝礼を行っており、今日の予定や、スタッフの休み、今日来る児童の目標など共有する。送迎で不在の職員には
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	毎日夕礼を行い振り返り、情報共有している。終了後、職員間で気を付けた事や児童の状態を情報交換している。	現状維持。時間をかけすぎることがある為、メリハリをもって共有する工夫をしていく。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	毎日の記録、カンファレンス等、月別表に児童の様子をまとめ各療法士の観察記録も取り入れる。	現状維持。昨年度より各療法士ともカンファレンス時間が密になった。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	月別表、ケース会議を行っている。	現状維持。3部構成の多機能型になった為、ケース会議の進め方等検討していく。

関係機関や保護者との連携

21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	原則、児発管が参画している。	現状維持。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0	関係機関と連携をはかっている。行政機関とも連携がはかれるよう努めている。	現状維持。
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	1 無回答6	利用児童にいない。	今後も含め詳しく分からない部分も多い為、他事業所がどのようにしているか等勉強したい。
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	1 無回答6	利用児童にいない。	同上
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	無回答2	送迎の時に話したり、担任や関係者が見学希望の時は丁寧に対応している。	現状維持。併用通園の児童がほとんどの為、送迎時に様子を伝えたり、必要に応じて会議を行っている。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1 無回答2	心理士(代表)へ相談をして小学校と連携をとっている。	必要に応じて担当者会議に参加している。
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	法人内の児童発達支援センターと連携をとっている。研修、ケース会議等でアドバイスをもらう。宮崎県児童発達支援施設連絡協議会へ加入している。	現状維持。児童発達連絡協議会の会員になり研修に参加している。
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	4 無回答1	保育園、幼稚園との併用通園をしている児童が多い。	併用利用している児童がほとんどなので一緒に活動する時間は普段からある。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4 無回答3		今後ふあむ・ふあーむ全体で検討の必要がある。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	送迎時、母子通園等を機会の場としている。	児童発達支援管理責任者が主に窓口になり保護者とs電話やメールにてやり取りをしているが、母子通園などの時には職員と直接話す機会も設けている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	3 無回答2	年に一回代表が行っていたが今年には分からない。	必要に応じて面談の中で家庭での関わり方等を話す事はある。

保護者への説明責任等

32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	契約時、児発管が丁寧に説明している。質問へはその都度対応している。	現状維持。契約の時に丁寧に説明を心がけているが、今後も保護者に合わせた説明をしていく。
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	ガイドラインを参考に個々の成長に合わせて計画を見直しその都度、面談で直接説明をしている。	ガイドラインを職員で共有し、保護者へは計画を説明している。
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	母子通園で定期的に面談ができる環境を作るほかに、必要に応じてメール、電話、直接面談する等を実施している。	児童発達支援管理責任者が主に窓口になり保護者とやり取りをしている。母子通園などの時には職員と直接話す機会も設けている。保護者が気軽に悩みを相談できるようにメール、電話などで情報共有をしたり助言に務めている。必要に応じて心理士との面談も企画することもある。
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2	保護者懇談会を月に1回計画しており、保護者間の交流の場としても時間を共有している。父母会はないが行事を通して交流の場になればと企画している。	今後も母子通園が出会いの場になるようにしたり、合同行事の参加をつのり交流の場としていく。
36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	同法人の児童発達支援センターに速やかに相談をし事業所としての意見を適切にまとめ、迅速に対応できるよう努めている。	児童発達支援管理責任者が主に窓口になり保護者とメールや電話でやり取りをしているが、母子通園などの時には職員と直接話す機会も設けている。
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	毎月1回お便りを発行している。	現状維持。
38	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	日ごろから十分配慮している。シュレッター等の活用。	現状維持。
39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0		お便り帳がない分、電話やメールでの対応を丁寧に行っている。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	7	1	年2回の合同レクリエーションでは地域の方や普段お付き合いのある施設の方等、沢山の方が参加してくれた。	合同BBQ、子ども祭りなど、地域の方も声をかけている。

非常時等の対応

41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	無回答1	8月の消防署での消火訓練、12月に行ったAED訓練等とても勉強になった。	緊急時は火事、地震、津波、土砂災害、風水害等分かりやすく担当マップにしたり毎月訓練を子ども達と実施している。今年度は年度初めに保護者に避難場所などの通知、避難バック(避難水、避難食等含む)を準備した。職員各自で流れを把握には個人差がある為、今後は定期的に確認していく。また、防犯マニュアル、感染症マニュアルについては今後周知していく。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	毎月1回避難訓練を行っている他、不定期で職員の消火訓練、AED訓練等計画する。	新規契約時に丁寧に非難場所などの説明を加えた。継続児童へは、年度の始めに文書で訓練の事、災害時の避難場所などを通知した。毎月お便りで実施した内容を写真で掲載している。保護者へ災害時の連絡方法、避難場所などの周知があいまいなため、引き続き年度初めに文書で通知していく他、面談の時等に進捗状況をお伝えできるようにして安心して利用してもらえるように努めていく。
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	保護者からの要望があればその都度、状況を伺って預かり対応している。	管理者が把握し、児童発達支援管理責任者が個別支援計画にも記載し、全体でも把握する。
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1 無回答1	保護者からの要望があればその都度、状況を伺って全体で共有し対応している。	食事提供は無いので現状維持。行事の時に直接保護者と注意事項を確認する。
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	昨年の反省を踏まえヒヤリハット報告書を作成し、全体で共有し事故防止に役立てている。マップはセンターへも報告をし予防や助言をもらっている。	現状維持。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0		毎年研修に参加し、事業所内全体で研修を行っている。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	2 無回答1	子どもの身に危険が生じる恐れがある場合と想定はしているが組織的に決定したものを文書では見たことが無いので確認をしたい。やむなく拘束があった場合はすみやかに状況を保護者に伝える。上記の内容を事前に契約時に保護者に説明をしている。	新規契約の時に口頭で保護者へ丁寧に説明するようにしているが、H30年度より身体拘束が必要な場合に、個別支援に掲載する規定がある為、今後も全体で協議していく。支援の中で状況が頻繁になる可能性がある児童へは個別支援に記載する。